

準早期水稻管理情報 NO.2

J A 粕 屋
北筑前普及指導センター

1. 生育概況

6月上中旬の平均気温は、平年より0.7℃高く、降水量は平年比45%と少なく、日照時間は平年比105%となりました。降雨量は少ないものの、用水は確保されています。

6月23日の生育調査では、「夢つくし」の5月14日植えて1株あたり茎数は平均29本、5月21日植えて同25本、5月28日植えて同18本(ただし、地区や植え込み本数により差あり)となり、平年に比べ茎数はやや多く生育は順調です。なお、今後の生育に応じた栽培管理の時期については、次のとおりと予想されます。

品種	田植え	穂肥目安 (出穂前 20~18日)	病害虫防除目安 (平年出穂期)
夢つくし	5月14日頃	7月 7~ 9日頃	7月27日頃
	5月21日頃	7月11~13日頃	7月31日頃
	5月28日頃	7月15~17日頃	8月4日頃

注意!

近年、高温傾向で出穂が早まっているため、出穂期の見直しを行っています。管理時期にご注意ください!

2. 水管理

(1) 中干し後 ~ 穂肥の時期

【間断かん水】を行いましょう。水の溜め過ぎ・乾かし過ぎは根が傷むため避けましよう。間断かん水は、「田面が露出したら水を溜める」を繰り返します。

台風時は深水、収穫前の落水はなるべく遅くしましよう

(2) 穂肥の時期 ~ 出穂の時期

出穂前後の1週間は、稲が水を一番必要とする時期のため、水を切らさないようにしましよう。

3. 穂肥

① 基肥に「緩効性(一発)肥料」を施用した場合

※エムコート2000、有機特栽米エムコート256号、有機エムコート355号等

→穂肥の施用は必要ありません。ただし、出穂前10日頃になっても葉色が薄い場合は、プラザにご相談ください。

② 基肥に「速効性肥料」を施用した場合

※くみあい化成ベスト444、有機特栽米基肥017号等

→施用時期は、出穂前20~18日頃(上記、生育概況を参照)、幼穂長2~5mm、葉色3.5程度に低下した頃が目安です。ただし、なたね油粕を使用する場合は、施用時期を上記目安より更に7~10日早め、施用量を30kg/10aとします。

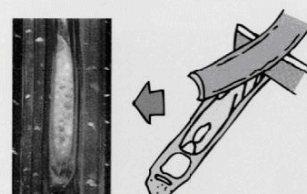
品種	肥料名(いずれかを選択)	施用量(kg/10a)	成分量(N-P-K)
夢つくし	NK化成2号(16-0-16)	15kg	2.4-0-2.4
	または 有機入特栽米追肥047号(10-4-7)	20kg	2.0-0.8-1.4

★穂肥のポイント

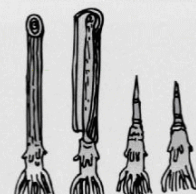
- 右図を参考に、各ほ場で幼穂長を確認して下さい。
- ほ場の地力・水稻の葉色により、穂肥の施用時期・施用量は調整して下さい。
- 葉色が濃いほ場(4.0以上)は、施用量を減らすか、施用を止めましよう。

【幼穂の長さを確認する】

〈その1 カッターなどで割る〉



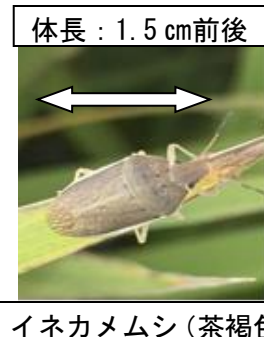
〈その2 葉鞘をむく〉



調査時 幼穂長	穂肥時期 の目安
0.5mm	6~7日後
1.5mm	4~5日後
2.0mm	1~2日後
3.0mm	0~1日後

4. 病害虫防除・・・イネカメムシに要注意！

昨年、粕屋管内では水稻病害虫「イネカメムシ」の被害が多発しました。イネカメムシは茶褐色のカメムシで、出穂期に籾を吸汁し、不稔や斑点米を引き起こします。**出穂の早い夢つくしは特に注意が必要です！**基幹防除をしっかり行い被害粒を出さないようにしましょう。農薬は従来のキラップの感受性が低いため、エクシードを選択しましょう。イネカメムシの防除適期は①出穂期、②出穂期+7日後の2回防除が基本です。また、畦畔雑草がカメムシ侵入の中継地点となるため、出穂の2週間前には必ず水田周辺の畦草刈りを行いましょ。



【基幹防除】・・・下記により、いずれかの体系で必ず防除して下さい。

①ウンカ・カメムシ対策・・・出穂期～穂揃期頃

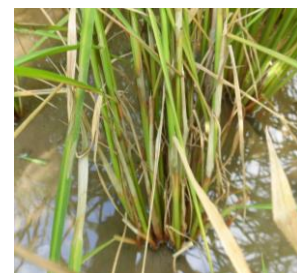
品種	対象病害虫	体系・農薬名	処理量(10aあたり)	使用時期
夢つくし	ウンカ類 カメムシ類	[粉剤体系] エクシード粉剤 DL	3kg	収穫7日前まで
		[液剤体系] エクシードフロアブル	[希釈水量 140 ㍓] 70ml (2000倍)	収穫7日前まで
		[粒剤体系] スタークル粒剤	3kg	収穫7日前まで

②いもち病常発地帯・・・穂いもちの防除適期は出穂始め頃

品種	対象病害虫	体系・農薬名	処理量(10aあたり)	使用時期
夢つくし	いもち病 紋枯病 ウンカ類 カメムシ類	[粉剤体系] ダブルカットバリダトレボン粉剤3DL	3～4kg	穂揃期まで
		[液剤体系] ダブルカットフロアブル モンセレンフロアブル エクシードフロアブル	[希釈水量 140 ㍓] 140ml (1000倍) 93ml (1500倍) 70ml (2000倍)	穂揃期まで 収穫21日前まで 収穫7日前まで
		[粒剤体系] ゴウケツモンスター粒剤 [豆つぶ剤] ワイドパンチ豆つぶ	3kg 250g	出穂5日前まで (但し、収穫45日前まで) 収穫35日前まで

★用語の説明

- ・「出穂期」：全莖数の40～50%が出穂（穂先が現れること）した日（各田植時期毎の平年出穂期は〔1.生育概況〕を参照して下さい。）
- ・「穂揃期」：全莖数の80～90%が出穂（穂先が現れること）した日（概ね出穂期の数日後に穂揃期となります。）



【補正防除】・・・令和5年度稲作ごよみ《補正防除》を参照のこと。

- ・粕屋管内では「紋枯病」の発生が増加しています。前年発生したほ場では病原菌（菌核）が土の中で越冬し再発するため、出穂の10日前までにモンセレン（粉剤・フロアブル）またはモンガリット粒剤等で補正防除を行いましょ。
- ・雨が降って気温が低い日が続くと、「いもち病」が発生しやすくなります。発生した場合は早めに補正防除を行いましょ。水田内に残っている植えつぎ苗は早急に処分しましょ。
- ・スタークル剤（粉剤・液剤）を散布する場合は、収穫7日前までの使用とし、ミツバチへの危害防止のため、稲の開花期の散布は避けて下さい。

農薬安全使用のポイント

- ①散布前は農薬ラベルを確認しましょ
- ②散布時は近隣作物への飛散に気をつけましょ
- ③散布後は散布器具を洗浄しましょ
- ④防除履歴を記帳しましょ
- ⑤散布作業は暑い日中を避け朝夕の涼しい時間帯に行いましょ